

カトリック行橋小教区：主任司祭 ベリオン・ルイ神父

—「待降節」を有意義に過ごそう—



子どもが生まれることほど、嬉しいことはい
 いでしょう。赤ん坊の誕生を経験した方は、き
 っと一生そのことを忘れることが

できず、経験のない方も
 間接的にその喜びを察すること
 ができるでしょう。新しい命が
 芽生えたことは、喜びと希望を
 もたらしてくれます。そのためか、
 ご自分のすべてを打ち明けるた
 めに神は幼な子イエスの誕生
 を望まれました。～その誕生を
 祝う季節が再び近づいてきま

した。～赤ん坊が誕生するまで9ヶ月とい
 う期間を要することを意識してかわかりません
 がイエスの誕生を祝う日を心から迎えること
 ができるために、教会は「待降節」とい
 う準備期間を定めました。祭り気分を楽しみに
 することだけではなく、信仰の内にイエスの

誕生の意味に対する理解を深めること、神
 の愛に満ちた「贈り物」である幼な子に対す
 る感謝の心を、一層確かなものにするこ
 と、それは「待降節」の望ましい過ごし方ではな
 いでしょうか。

今年の「待降節」の間にも、典礼に合わ
 せて、自分の信仰の歩みを振り返りながら、
 幼な子イエスのご降誕祭に相應しい心を、
 自分の内に培うように励んでみましょう。

* 祈る時間を確実に作ることによって。～た
 とえば、家庭でイエスの誕生を思い起こさせ
 る「飾り物」の前で「待降節」の4週に合わせ
 て4本のろうそくに順番に火をつけながら。

* 神の赦しを求めることによって。～たとえば、

行橋での12月7日(火)、
 豊津での12月15日(水)の
 共同回心式を通して。

* イエスのご降誕の喜びと
 平和のメッセージを家庭で学校
 で職場で告げ知らせることによ
 って。～たとえば友人や知り合
 いの方を教会で共に「クリスマ
 ス」を祝うように誘うことによって。

～人によって、家庭によってできることは異な
 っていますが、慌しい師走にもかかわらず、
 「待降節」を有意義に過ごすことを皆さんに
 お勧めしたいと思います。「待降節」の「待
 つ」を大切にしましょう。～いらいらして「待つ」
 のではなく、ときどきして「待つ」ように…。

